

健康ワンポイントアドバイス

発行：十日町市中魚沼郡医師会

発行日：平成27年3月発行

第154号



● コタール症候群

山下メンタルクリニック 院長 山下正廣 先生

妄想はすべからく奇妙なものだとはいえ、特に奇妙で、どう理解しようとしてもできず、ただ、これ・これと記録することしかできない。そんな妄想があります。

その一つ、コタール症候群・・・永延妄想、不死妄想あるいは虚無妄想とも言います。

およそ四半世紀前、私が大学精神科に入局したころ、初老の紳士風の患者さんがいました。教授回診の時、若い主治医が教授に「まだコタール症候群が続いていて・・・」などと説明していました。

いかにも知的な一少なくとも主治医や私より知的な一印象の患者さんの表情は暗く辛そうで、明らかに会話もしたくない様子でした。教授はそれを察してか簡単に挨拶して部屋を出ました。

その後、主治医から、その患者さんが便器にがつんがつんと頭をぶつけて自殺を図り、「俺は死ねない！この苦しみは永遠に続くのだ！俺の脳は腐ったのだ！」と顔面血だらけにして言っていた、と知らされました。

教科書で知っていたとはいえ、こんな妄想が現実にあったのだとひどく衝撃を受け、人間の可能性と危うさを痛切に感じました。

自分は天才だ、大金持ちだという妄想なら幸せかも知れませんが、こんな妄想は想像するだけでもごめんですね。永遠にずっと冬が続く、と思うようなものですから。

(問) 何が悲しゅうて、こんな雪の深いところに住んでいるのか？

(答) 春の山菜があまりにも美味しいから！

春になる

さくらが枝は何となく

花なれども睦まじきかな

西行

